



臨床で看護研究 をしてみよう



家族支援看護学領域
母性看護学・助産学分野
教授 町浦 美智子

白鳥会の皆様お元気でお過ごしでしょうか？早いもので私が大阪府立看護大学に赴任してから16年の日々がたちました。私は大学院生への研究指導をはじめ、博士課程では看護学研究方法論や看護理論開発方法論、看護学研究方法論演習を担当しています。今回、皆様が臨床で看護研究をする意義や取り組みについて述べたいと思います。

臨床で「看護研究をしましょう」と言うと、皆様の中には「研究は苦手」「業務で忙しいし研究する時間がない」「研究なんて関係ない」と考える人も多いのではと推察します。でも、「なぜ研究をする必要があるのか?」。それは言うまでもなく看護実践の質向上に寄与するという使命があるからです。皆様は日々少しでも患者にとって良い看護をしたいと考えておられると思います。それを研究という形にすることで日々の看護実践を振り返る機会になり、看護の質向上に貢献できるのです。

皆様は事例研究に取り組んだことがあるかと思います。これは立派な研究です。実践した看護を丁寧に振り返り、自分の看護実践がそれでよかったのか、もっと他の実践はなかったのかなど文献を用いて考察します。日々の看護実践を丁寧に振り返ることが研究の出発点です。そして、何か疑問に思えば文献を探してみることも重要です。すでに優れた看護援助方法を見出している研究を探すことができれば、それが自分達の看護実践に適用できるかどうか吟味し、どうすれば活用できるかなどを検討していけばよいと思います。私は臨床での研究の出発点は事例研究と文献検討にあると思っています。自分が研究を実施しなくても他者の研究を批判的に吟味することで何が分かっているかが分かっていないのかを見定めることができます。これは研究をする意義や目的につながっていきます。

学会や論文で事例研究を発表する場合、看護理論の枠組みを使って患者の持つ健康課題・問題をアセスメントし、実践の方向性を定めることが必要です。その場合、「どの理論を使えばいいの?」と悩まれると思います。一般的に中範囲理論と言われるセルフケア不足理論やソーシャルサポート、危機理論、ストレス・コーピング理論、保健信念モデルなどを用いることが可能です。これらは患者をアセスメントする視点・枠組みを与えてくれるので、情報の漏

れやダブリが少なくなり、気づかなかった患者の視点も見えてきます。理論を毛嫌いせずに、まずは事例研究から始めてみませんか？

次に看護場面で起きている現象を丁寧に記述するという質的研究があります。これまで先行研究があまりなく現象が明らかにされていない場合に用います。患者や家族、看護職者が経験していることやそれに対する心理的な側面を丁寧に面接や参加観察などにより記述していきます。質的研究の中では、皆様もご存知のようにグラウンデッド・セオリー法の目的は理論を構築することです。領域密着型理論、つまり中範囲理論より抽象度の低い実践理論の構築です。このように看護実践の現象を丁寧に記述する研究を通して理論が創生される、つまり実践、研究、理論は円環的關係にあることがわかります。さらに質的研究は尺度開発の前段階で尺度の項目を決定する際にも実施されます。また、皆様は質的研究論文を読んで、「ああ確かにそんなことあるよね」と共感することはありますか？そうであれば、その研究は実践に根付いている日々の現象を可視化してくれているのです。それは他の看護職者と共有することができ、そこから新たな看護援助が見出せるきっかけにもなります。これは研究内容や看護援助の普遍化にもつながります。

量的研究の場合、有意差の有無がよく議論されます。統計学的に有意差があっても臨床的に意味のないことであれば、それは単なる数値の話になります。数値が示す現象をどう読み解くかが最も重要だと考えます。

皆様にはぜひ日々の看護実践を振り返る、疑問を解き明かす出発点として研究論文を読んで吟味してみる、事例研究や質的研究をしてみる、など取り組んでいただきたいと思います。また、大学院への進学や大学教員、図書館などの人的・社会的資源を活用することで研究能力を身に付けることもできます。ぜひ臨床で看護研究を活性化させていただければ幸いです。

最後に、私は3月で大阪府立大学を退職し、4月からは武庫川女子大学に異動いたします。未筆ながら、皆様のご健康とご活躍を祈念するとともに、学会等でお会いできることを楽しみにしています。

階堂武朗先生の最終講義

「疫学：生命表について」

大阪府立大学地域保健学域看護学類
基礎看護学領域 隅田 千絵

平成28年1月26日（火）4コマ目、そこには先生のいつもの講義風景が広がっていました。

穏やかな口調で、独特の語尾を強調した話し方、そして時々ユーモアを交えた講義は、私が学生の頃と変わっていませんでした。講義終了後に、「皆さんにお伝えしたいことが、たくさんありすぎて・・・」と言われて、教育に対する熱意を感じました。最終講義は各看護学領域からの花束贈呈後、会場からの盛大な拍手で終了しました。終了後は、学生たちに取り囲まれ笑顔で写真撮影に応じておられました。



会長挨拶

大阪府立看護大学 5期生 前田 一枝

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？2015年は第14回白鳥会総会・同窓会を開催いたしました。同窓会には、今年度着任された辻学長がお見えになりました。府大の現在の様子を身近に伺うことができました。また、当日は広報課長仲野様にもご出席いただきました。府大グッズを提供いただき、ありがとうございました。講演は高辻先生に「看護大学20年の歩み」として、大阪府立看護大学の設立前後の秘話から大阪府立大学となった現在までのお話をしてくださいました。大変懐かしく、また感慨深く母校へ思いを寄せることができました。懇親会では、毎回ながら託児保育サービスを利用してくださるお子さんの声がほがらかに響く中、上野研究科長を始め、先生方や4回生の学部生が参加くださり、とても有意義なひとときを過ごせました。

同窓会の役員は、母校に教員として現在活躍

してくれている同窓生が、多忙の中、同窓会活動を支えてくれています。2年に1度の総会・同窓会の準備も自転車操業で毎回大変ですが、開催後は、「やっぱり頑張った良かった」と思います。まだまだ、私たちの年代では、日々の生活におわれ、母校を振り返り懐かしむことが難しいです。それでも、日常の中で、ふと母校の仲間と再会し、また同窓の中で新しい出会いがあることで、エンパワーされると実感しております。第15回総会・同窓会は2017年9月の第2土曜日の予定です。どうぞ、久しぶりに同窓会へお越し下さい。母校の和やかで優しい空気に包まれると思います。



ホームカミングデー

大阪府立大学地域保健学域看護学類
就職委員 高 知恵

平成27年6月13日（土）、さわやかな晴天の下、大学・白鳥会共催による第4回看護学部新卒者ホームカミングデーが開催されました。肉体的にも精神的にも負担の大きい

私たち看護職者ですが、新卒者にとっては卒業して2か月が経過し、夜勤が始まる頃でもあり、職場での緊張や不安を強く感じる時期でもあります。このような時期に慣れ親しんだ母校で、同じ境遇の仲間たちとざっくばらんに話をし、お互いが共感しながら、明日からも頑張ろう！という気持ちになりました。

今年は15名の卒業生と10名の教職員が参加し、美味しいケーキやお菓子、飲み物を手に、久しぶりに会った仲間

達と楽しい時間を過ごしました。会ではそれぞれが新しい職場での近況を報告し、その後、「初めて〇〇した話」、「最近うれしかったこと」、「私、変わりました」などが書かれたボールをボックスから引き、テーマに沿って話をするボックストークも行われました。笑いあり、涙あり、と素敵な時間を共有することができました。

最後には、教員からの応援メッセージが書かれた冊子が手渡され、お腹も心も満たされたことと思います。



杏樹祭への寄付の活用に関するご報告

大阪府立大学 羽曳野キャンパス
第22回杏樹祭実行委員会委員長 **柳本 啓太**
杏樹祭実行委員会一同

この度は杏樹祭への寄付、誠にありがとうございました。ここに杏樹祭での寄付金の活用について報告いたします。まずは、杏樹祭においてなくてはならないもの「吉本LIVE」です。今年は、狩野英孝さんにお越しいただき、TV出演が多く、人気度・知名度があったので、大盛り上がりLIVEとなりました。吉本興業株式会社さんと契約を結ぶ際に寄付金の一部を使用させていただきました。他では、キャンパスの装飾やオブジェの制作に使う紙やテープなどの製作費に寄付金の一部を使用させていただきました。

今年の杏樹祭は、「杏semble」という言葉をテーマに掲げました。「ensemble」という単語には協調、調和などの意味があります。杏樹祭実行委員だけでなく、羽曳野キャンパスに関わる方々、地域の方々、杏樹祭を支えてくださる

様々な人が協調し一体となって杏樹祭をつくりあげようと委員会一丸となって取り組んできました。

白鳥会の皆様をはじめ、学生グループの皆様、後援会の皆様のご協力なしには成功しなかったと、杏樹祭実行委員会一同、心から感謝しております。



「中もず会」の新しい展開

東京同窓会 副会長 **山田 昭正**

東京同窓会の勉強会である「中もず会」は平成27年から校友会、FLEDGE※と共催で開催しています。

東京・霞が関の会場とI-Siteなんば、I-Wingなかもずを通信回線で結び3元中継で地域を超えた情報交換を行い、卒業生の貴重な経験を学生たちにも開放し教育の一端にしようという企画です。

内容の一端を紹介します。

久野華子さんはバックパッカーで40か国を廻った貴重な体験談を美崎栄一郎さんは花王での化粧品開発に係わる経験談、竹本勇一さん、谷口稔明さんのお二人には薬の開発やら感染症の予防について専門的な興味あるお話をして頂きました。そして5回目は大阪会場の辻学長と東京会場のOB3人が座談会方式で国際交流について話し合う今までにない企画に挑戦し好評でした。

総参加者は175名にのびりました。若い平成20年以降の人の参加も多くなってきており、終わった後の懇親会も賑

やかです。

東京在住の皆さんには是非一度顔を出してみてください、同窓会の新しい一面を覗くことが出来ます。

これらの活動状況はHP大阪府立大学東京同窓会～中もず会で検索して見る事が出来ます。同じHPから参加申し込み出来ます。お待ちしております。

※FLEDGEは文部省から認定を受けたグローバル・アントレプレナー育成促進事業（EDGE）の府大版名称です。
お問い合わせ先 山田 迄 yama-ac@yhc.att.ne.jp



大阪女子大学同窓会

「斐文会結婚相談室」へのお誘い

2012年より記事を掲載していただいております、大阪女子大学同窓会斐文会結婚相談室です。昨秋のホームカミングデーでは白鳥会会員さまからお声をかけていただき、お蔭さまで白鳥会さまにもご認知いただけていることを実感し、大変喜んでおります。

私ども結婚相談室は、斐文会の社会奉仕的活動として位置づけられています。従いまして、相談員や委員は全て斐文会会員が担当しています。同窓の信頼関係が会の運営を支えていると自負し、活動を続けております。

こんな活動の中で、ご成婚された方からお礼の手紙や電話を頂戴することもしばしばです。中には随分以前にご結婚された熟年カップルからのお礼状もあつたりし、相談員一同本当に感激しています。これも、昭和42年以来47年間

に亘り、地道な努力のもと活動をしてきた賜物だと思っております。

また長年、会員さまの相談をさせていただいておりますと、不思議なご縁を感じる事がよくあります。何度お見合いされてもなかなかうまくいかなかった方が、新しく入会されて初めてお見合いをされた方とあれよあれよという間にご成婚の運びとなるケースなどなど。

会員さまのお幸せな笑顔を拝見しながら、私どもも喜びのお裾分けを頂戴しています。

白鳥会の皆さま、ご本人はもちろん、ご子女のご入会を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先 / TEL 06-6390-1518
開室日時 / 月・水・金 13:00 ~ 19:00
(祝日の場合は 18:00 まで)
土・日 13:00 ~ 18:00
入会金 / 10,000 円 年会費 / 10,000 円

★★★ 事務局からのお知らせ ★★★

○白鳥会のホームページをご覧ください

皆様に同窓会の活動や母校の“今”を知っていただくために、昨年度ホームページをリニューアルしました。

<http://www.dosokai.ne.jp/shiratorikai/indexp.php?mid=1>
随時、情報を発信していきますので、ご覧ください。

○同窓会役員を募集しています

同窓会の運営にご協力いただける方を募集しております。今後、ますます同窓会活動を発展させるためには、皆様のお力が必要です。主な仕事は、会報誌の作成、同窓会総会の企画・運営です。同窓会を発展させていくためにも、多くのアイデアをいただき楽しく運営をしていきたいと思っています。ご希望の方は、白鳥会HPからお問い合わせください。

○同窓会費（終身）未納の方へ

同窓会活動は、会員の納める会費で運営しています。未

納の方には、年に1回この会報誌と一緒に納入のお願いの文書と振込用紙をお送りさせていただいております。ご協力よろしくお願いいたします。

○住所や姓名変更のお願い

例年、会報誌や同窓会総会の案内を送付していますが、宛先不明の方が多くなっております。住所や姓を変更された方は、白鳥会HPから変更のご連絡をお願いいたします。母校の情報をお届けしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

○翔システムをご登録ください

大阪府立大学同窓会である校友会には“翔”というネットワークシステムがあり、様々な交流・情報交換が可能です。大阪府立大学校友会HP (<http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp>) から登録が可能です。

白鳥会 看護研究助成のお知らせ

白鳥会では、臨床の場で研究に取り組んでいる方、これから始めようとしている方を応援しようと、看護研究助成事業を行っています。平成28年度分の募集要項は決まり次第HPにアップしますので、ぜひご覧ください。

平成27年度 同窓会役員の紹介

会 長：前田一枝
副 会 長：中村雅美、浮舟裕介
書 記：高（椿）知恵、木下智令
会 計：安本理抄、武田真理
会計監査：撫養真紀子、角野雅春
事務局長：深山華織
事務 局：濱口亜紀、根来佐由美、山口舞子、隅田千絵
鈴木亜衣美、富田亮三

新学年幹事

学 類 生：鴨井沙耶香、山口祥穂
院 生：斎藤志織、永友 舞

編集後記

春風が心地よいこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年度は2年に1度の同窓会の年でした。久々に会う友人や先輩・後輩、懐かしい先生方と楽しい時間を過ごすことができ、仕事に育児に奮闘する皆さまの姿から、自分も頑張らなきゃ！という気持ちになりました。

今回は会報誌編集作業に関わらせていただき、多くの方々にご協力をいただきました。最後になりましたが、ご多忙にも関わらず会報誌にご寄稿くださいました皆様に心から御礼を申し上げます。